

「身近にある危険」

静岡市立藁科中学校 二年 望月 咲

私の住んでいる峰山地区は、土砂災害の危険がある地域です。

私が住んでいるのは、蛇塚という場所で、私が小学校三年になる年の春に引っ越してきました。この峰山地区では、毎年十二月に地域での防災訓練があります。その防災訓練では、四つの町内ごとに集まり、用意された大きな地図に町内の危険などを書きだします。

私は、小学校高学年くらいの時に、その防災訓練で、私の住んでいる家の場所が、地すべりの危険があるところだと知りました。確かに、私の家の後ろには山や畑があり、結構急な斜面になっています。前にも聞いた事があるのですが、今回土砂災害防止の作文を書く事に決め、母に地すべりが起きたらこの家はどうなるの、と聞きました。すると、私の家のちょうど上あたりにある家も地すべりと一緒に流れてきて、この家はつぶれるだろうね、と言われました。もう何回も聞いていますが、それを聞くたびにそんなに危ない場所に住んでいるのか、とこわくなります。

また、私のおばが住んでいる家は、今まで大きな台風が来るたびに土砂崩れをしていたと聞きました。母が小さいころは、道が崩れる危険があったので、台風が来る時は少し離れた隣の家に避難していたらしいです。今は、隣の家に避難する、というところまではいきませんが、私たち家族が引っ越してきてからも何回か土砂崩れがあったので、この地域は本当に土砂災害の危険と隣合わせだと感じました。

今年に入ってからには、土砂災害の不安が強くなっています。三月十一日、三月十五日、八月一日の地震、台風6号など、家にいて地すべりしてくるのではないかと、とにかく不安でした。私の地域では、特に被害はありませんでした。しかし、ほかの地域、他県では土砂災害があったとニュースで見ることがありました。自分の家が地すべりの危険があるだけに、そういうニュースはひどいことではありません。ああ、いつかは私の家もこんなことになるのではないかと考えてしまいます。また、この地域はお年寄りの方が多く住んでいます。そのため、もし土砂災害が起きた場合、避難するのに時間がかかったり、避難が遅れ、土砂災害に巻き込まれてしまう人もでてきてしまうのではないかと、と思

います。

お年寄りの多い地域を、土砂災害からの被害を少しでも減らすには、特に危険がある場所には、人が住めないようにしたり、普段からお年寄りにの人たちと話をするようにして、若い人たちがお年寄りを気づかう、というのがいいのではないかと思いました。そもそも危険なところに住めないようにすれば、土砂災害に巻き込まれた、なんてことも減るだろうし、普段からお年寄りの状態をわかっていれば、すぐにその人のところに行って、手助けすることもできると思います。もし、本当に土砂災害が起こった場合、この地域の道路も崩れてしまい、孤立してしまうと思うので、誰かが巻き込まれてしまったら、レスキュー隊などが来るまでに時間がかかると思います。そうなった時を考えると、レスキュー隊を待つよりも、少しでも巻き込まれた人が早く助けられるように、地域の人たちで助け出そうとする方がいいのではないかと思います。だから、普段から地域の人たちと関わり合っていくことが大切なのではないか、と思いました。